

# 私の人生の宝物 野球と詩吟とゴルフ

すどうひでただ  
富士宮市長(静岡県) 須藤 秀忠



## チームワークの大切さを学ぶ

私は野球が好きで、中学、高校時代野球部に入り、また、大人になってからは、自らがオーナーとしてチームを結成。Aクラスチームとして、富士宮市の野球界の精鋭として頑張ってきました。

昭和54年、32歳で市議会議員に初当選。富士宮市議会議員チームのエースとして、また、3番バッターとして活躍。静岡県市議会議員野球大会では常に優勝候補となり、炎天下の中3試合連続完投勝利して、何回か富士宮市に優勝旗を持ち帰ることができました。

また、平成11年、52歳のとき、県議会議員に初当選し、以来3期を県議会議員の野球部に所属し、県議会議員チームのピッチャーとして、また、シヨートとして、チームの中心となって議員野球に熱中しました。県議会議員の野球レベルは高く、甲子園出場者をはじめ東海4県の実業団の野球部で鍛えた優秀な選手が多くいました。しかし、その中で私が最優秀選手に一度選ばれたこともありました。

また、平成23年、64歳のときに富士宮市長選に初当選しましたが、年齢をものともせず、私は早朝野球を続けてき



チームのエースとしてマウンドに立ち力投する私



静岡県議会の野球チームと相手チーム(前列左から2人目が私)

ました。その頃の私は、80歳まで現役選手として頑張ろうと思っていました。

しかし、市長になってから一年後、秘書課の職員から市長が野球をやってケガをしたら市政運営に差し支えるので、プレーすることを控えていただきたいとの要請がありました。

私は、外見は若作りで、体も柔軟なことから、まだまだ野球ができる自信がありました。しかし、職員の言うことがもともとだと判断し、市長職を優先し、野球の試合に出ることをやめました。

野球は、我が人生にとりまして多くの思い出のあるスポーツでした。そして、多くのことを学びました。

野球からは、「何事もチームワークが大切」「チャンスの後にピンチあり」「ピンチの後にチャンスあり」「野球はツアアウトからが勝負」という言葉を学びました。

昭和54年から政治に携わり46年たちまし

たが、市政運営を行う上でも、野球から学んだことがたくさんありました。私は、ごく単純で、ごく当たり前のそれらの言葉を肝に銘じて、今までの人生を過ごしてまいりました。

まさに、野球は私の人生の宝物でした。

## 漢詩や和歌に親しむ

私が詩吟の道に入るようになったきっかけは、岳心流富士宮愛吟国風会の副会長であった佐野晴心先生から誘いを受けたことです。

昭和57年、35歳のときでした。

市議会議員の職務の合間をぬって毎週木曜日に先生の家に詩吟の稽古に出向き、多くのお弟子さんたちと一緒に一生涯懸命詩吟の修練に励み、多くの人のふれあいがありました。

詩吟の魅力は、何と言っても漢詩や和歌を腹から朗々と詠みあげる爽快感にあります。

また、漢詩や和歌に込められた先人の高い志に触れることや詩吟独特の節まわしにより感受性や表現力を養うことができることも詩吟の大きな魅力のひとつであります。

そのようなことから、私も詩吟に魅せられ、いつの間にか詩吟のとりことなってしまい、無伝、初伝、中伝、奥伝、奥伝準師範、皆伝、師範、上席師範、準総伝、総伝と段



岳心流富士宮愛吟国風会の上席師範以上の吟詠大会で吟じる私

階を一つ一つ駆け上がり、思いも寄らぬ最高位の地位になってしまいました。準師範、師範の試験もあり、試験に落ちてはならないと必死になって稽古に励み合格できたことは誠に感激の極みでした。

今では、稽古もあまりできませんので、市の吟詠大会で来賓として一吟を頼まれ披露していますが、家では、風呂の中で吟じたり、温泉旅行の際に誰もいないお風呂の中で思いつきり吟じたり、最近は何か催しがあった際におだてられて「川中島の鞭声べんせき、肅々しゅくしゅく」などを吟じたりして、詩吟を楽しんでいます。

「継続は偉大なる財産である」という言葉がありますが、40年以上詩吟に携わってきたことは、漢詩や和歌を自然に覚え、情緒ある生活を得られ、人間としての文化力や教養を得られて本当に良かったと感じ入るこの頃です。

詩吟は80歳を過ぎても90歳になっても続けようと思っています。

### 健康づくり・若さを保つ

ゴルフは30代の後半に覚えました。ゴルフ場へ通う回数も少なく上達しませんので、スコアは100前後です。

最近では、120前後のスコアで大たたき

をしています。

ゴルフは、広い芝生の中で長い距離を歩きますので、健康のためにとっても良いスポーツだと思います。

そして、開放的な場所での友人達との一日のお付き合いは、非常に楽しく、また、初めて出会った人と一緒にコースをまわると10年来の知己になったような親しみを感ぜられるスポーツでもあります。

特にゴルフは地位や身分やお金の有無しに関わらず楽しめる実に素晴らしいスポーツです。私は現在78歳ですが80歳になっても続けたいと思います。

富士宮市の郷土の大スター「水戸黄門」で有名な里見浩太郎さんとも2回ほど一緒にプレーいたしました。里見さんは、私も10歳年上にもかかわらず、スコアはシングルに近く、いつまでもお若く、素晴らしいプレーヤーで、私は里見浩太郎さんを心から尊敬しています。

私はゴルフから一つの言葉を学びました。それは「禍福は糾あひまえる繩なの如し」という言葉です。

ゴルフは、自分の意に反して、と



「水戸黄門」でおなじみの富士宮市出身の里見浩太郎さんと一緒にコースをまわる私

んでもないところに打ってしまふことがしばしばあります。しかし、一方で、思いもよらぬ素晴らしいショットが打てるため、私は喜んだり、しょげたりを繰り返しています。一時期思うようにいかない悪いときであっても、じっと耐えて辛抱して努力していれば、天が救いの手を差し伸べてくれます。

禍わざわいと幸福は表裏一体であり、悪い状態はいつまでも続かず、必ず良いときもあると信じて、諦めないで粘り強く頑張っていくことがいかに大切かを、ゴルフを通じて感じ取ることができました。

市政運営についても通じることです。総じて、私が46年間、政治活動ができたことは、野球、詩吟、ゴルフのおかげで健康を保持でき、多くのことを学ぶことができたからだと思います。